

## 平成 21 年 4 月 13 日 ブリーフィング説明内容

以下は、平成 21 年 4 月 13 日に行なったブリーフィングにおける弊社会長 細谷 英二による説明内容です。

当社およびグループ銀行の 6 月における副社長以上の人事について内定しましたので公表させていただきます。

りそなホールディングスについては、私と檜垣社長は、引き続き再任ということです。4 月 1 日の信託銀行との合併に伴い、檜垣社長はりそな銀行の代表取締役を兼務し、信託業務の推進をしておりますので、執行体制の強化、特に今後資本政策あるいは I R 体制の強化が必要だということで、現在の C F O の東執行役を取締役兼執行役副社長に昇格させます。それから監査委員の渡辺取締役が埼玉りそなに復帰することに伴い、新生銀行からヘッドハンティングし、リスク統括を担当している磯野執行役を取締役に選任し、監査委員に就任する予定です。なお、社外取締役の箭内取締役、2003 年 6 月公的資金が入って以来 6 年間社外取締役をやっていただいておりますが、昨年来から退任したいという意向を示されており、この 6 月に最終的に退任されることになり、取締役体制は引き続き 10 名体制ということです。りそなに公的資金が入ったときに、社外取締役 6 名、社内の取締役 4 名の体制でスタートし、その後社外 7 名対社内 3 名に変更しましたが、スタート当時の社外取締役 6 名、社内 4 名の体制に戻させていただきます。

続きまして、グループ銀行の役員異動について、コメントします。りそな銀行については、岩田取締役兼専務執行役員を代表取締役社長に昇格させます。それから中村副社長は再任、現在大阪担当の広富取締役兼専務執行役員を代表取締役副社長に昇格させます。りそなホールディングスの檜垣社長については、引き続き信託担当の代表取締役をやってもらいます。なお、今回の新体制で、経営陣のチームワーク体制を強化したいという方針で、私自身は銀行の代表権は返上し、取締役会長ということで社外取締役のご了承をいただきました。埼玉りそな銀行については、取締役会長に現在ホールディングスの監査委員の渡辺取締役が就任します。それから代表取締役社長には、現在りそな銀行の上條取締役兼専務執行役員が就任します。りそなグループスタート以来 4 年間埼玉りそなで執行役員、代表取締役でしたので、埼玉りそなに復帰するという形です。なお、現在埼玉りそな銀行の戸所代表取締役兼専務執行役員は副社長に昇格させます。なお、近畿大阪銀行は、現行体制を進めたいということです。

取材のときにコメントさせていただいておりますが、2 年前から C E O サクセッションプランということで、次期経営陣を育成、選抜する仕組みを導入してきました。詳細な説明

は割愛させていただきますが、私と指名委員会の社外取締役を中心に、この 2 年間に亘って、約 20 名近い役員クラスから、経営トップとしての資質を持った人の選抜を進めてきました。昨年の暮れにほぼ絞込みができましたが、いわゆる第一世代、私が会長に就任したときに既に代表権があった役員を第一世代という言い方をしておりますが、その交代の時期をどうするか、それから一人のリーダーシップでは限界があるので、トップ経営陣のチームワーク体制をどうするかということについては、私が原案を作成するという方針を指名委員会で決めていただきました。ただ、昨年度は様々な経営課題を抱えていましたので、この経営課題を乗り越えた段階で、交代の時期等を決定したいと思っていました。しかし、3 月中旬頃、まず最初に水田社長、その後野村副会長から、「後進に道を譲りたい」という申し出がありました。続いて翌週、埼玉りそなの川田社長、利根会長からも「後進に道を譲りたい」という同様の申し出がありました。従いまして、急遽 3 月末から最終調整に入りました。そして、今回の案について、各社外取締役の了解を取り、本日指名委員会を開いて、内定人事を公表する段取りとなりました。

なお、先週から本日の午前中にかけて、関係当局への事前報告、それから 3 年前の埼玉りそなのトップ交代の際には、「唐突であった」と埼玉県内から若干の不満の意が示されましたので、今回は先週中にももちろん人事内容については事前に説明できませんが、埼玉りそなの経営トップの交代と今月中に公表する旨を関係者に事前にお伝えする、そういう根回しもすべて完了いたしましたので、本日の発表となりました。

実施時期は、ホールディングスに係る人事はもちろん上場会社ですから、株主総会終了後の取締役会で正式に決定するという事です。傘下銀行については、社外取締役から移行を急いだろうがよいだろうという意見が多かったことを踏まえ、出来るだけ 6 月の早い時期にトップ交代は実施したいと思っています。それから、今回の選考については、社外取締役のガバナンスの下で進めましたので、年次や出身銀行というのはデータベースに全く入力せずに進めてきましたので、おそらく銀行界のこれまでの常識では違和感のある体制になったのではないかと思います。りそな銀行では、岩田新社長が昭和 54 年の入社、中村副社長が昭和 51 年の入社、広富新副社長が昭和 53 年の入社ということで、社長、副社長の年次が逆転しています。一方、埼玉りそなの新体制の副社長以上は全員昭和 52 年入社ということで、同期です。従いまして、この同期の人間関係等も事前にいろんな情報を集めて、この 3 人の組み合わせで十二分にやっていけるという確認を取った上で、今回の人事を決めさせていただきました。

なお、今回退任する役員については、既に川田さん以外は就任しておりますが、利根会長は埼玉りそな産業協力財団の理事長ポスト。川田社長はりそな総研に理事長ポストを復活させて、りそな総合研究所の理事長へ就任。野村副会長は、りそなアジア・オセアニア財団の理事長。それから水田社長は、りそな中小企業振興財団の理事長というポスト。それぞれ 4 人の方はりそなと密接な関係の財団等の理事長ポストで引き続き、後方からりそ

なの経営改革を応援してもらうことにしています。なお、利根会長は地元財界等の役職がまだ残っていますので、バトンタッチをしていただくプロセスが必要です。ここ1~2年はシニアアドバイザーという形の役職で、現職のトップ等に引継ぎをやってもらうことにします。

最後に申し訳ありませんが、新社長等には本日午後人事の内示をしたところですので、新旧社長の記者会見等については、別途日程を調整させていただきます。